

式 辞

あふれる生命の胎動が春の華やぎとなり、躍動のエネルギーが何ものにも替えがたい力を輝かせながら、桜花綻ぶこの佳き日に、同窓会長 海老原洋子様、PTA会長 梁瀬 剛様、教育振興会長 堀口芳明様、そして、多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、令和四年度群馬県立高崎女子高等学校入学式が厳粛に挙行できますことに、まずもって厚く御礼を申し上げます。

ただ今、入学を許可いたしました二百八十名の新入生の皆さん、入学おめでとう。君たちの入学を学校教職員を代表し、心から歓迎いたします。また、これまでずっとお子様を慈しみ、温かく支えてこられた保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。心よりのお祝いを申し上げます。ただ今、ご確認いただいたとおり、私たち高崎女子高等学校は、確かにお子様をお預かりいたしました。これから新入生全員が意義深い高校生活を送り、自ら本校を選び、学んだことを生涯にわたって誇りに思えるよう、精一杯指導に当たって参りたいと思います。

新入生諸君、今、君たちが晴れてその一員となった群馬県立高崎女子高等学校は、明治三二年群馬県高等女学校として県下初の女子高等教育機関として設立され、今年で百二十三年を迎える、まさに歴史と伝統を誇る高等学校です。本校が、教育理念の核として受け継いできた「向学叡智」「清楚品位」「明朗闊達」の校訓は、言うまでもなく女子教育機関としての誇りと覚悟を示したものです。新入生の皆さんが、「向学叡智」常に真摯に学びに向かい高い知性を保ち、「清楚品位」飾り気がなく清らかで気品に溢れ、「明朗闊達」明るく前向きで心の広い、そうした資質を兼ね備えた、一人の自律した人間として成長できますよう、教職員一同全力で応援いたします。まずは、この校訓を心に刻み、これからの学校生活の礎としてください。

さて、晴れの入学にあたり、これからの高校生活に希望を抱き、清新な気持ちに満ちている君たちに、本校の校長として強く期待するところを述べたいと思います。

今君たちは、入学を果たしたここ高女で大いに学び、大いなる飛躍を遂げたいと意気込んでいることと思いますが、高女での学びを自分のものにし、将来に繋げていくことは決して易しいことではありません。入学後学習が始まれば、多くの人がその学習内容の難解さや、要求される到達水準の高さに少なからずショックを受けることでしょう。そして、君たちの中には高女で学んでいくことは自分にはむずかしいのではないかと感じてしまい、時に適応していけない自分に劣等感を持ってしまふ人もいるかも知れません。しかし、そんなとき決して忘れてはならないことは、それは、君たちにやる気や根気が足りないからではない、ということなのです。なぜならば、それは、人間は、そう簡単には変わらない、人間の意志の力はあまり当てにはならない、ということだからです。これはエビデンスのある科学的な知見なのであり、私たちの脳は、自らが生命の危機にない限り簡単に変わろうとはしないことが脳科学の研究です。で明らかになっているのです。

では、君たちはどうすれば、ここ高女で思い描いた自分に変わっていくことができるのでしょうか。

二〇世紀を代表する米国の哲学者であり、心理学での豊富な知見を基盤に、観念的な議論に終始して現状を一向に打開できない形而上学を批判し、行動を重視する「プラグマティズム」の流れを生み出したイデオログである、ウィリアム・ジェームズは、「人間とは単なる習慣の塊にしか過ぎない」という興味深い言葉を残しています。これは、人間を創るのは強い意志ではなく、自ら起こす行動によって生まれる習慣なのである、ということなのです。

勉強しなければならぬのに、なかなかできない自分がある。頑張らなければならぬと自分でもわかっているのに、頑張りきれない自分がある。こんな経験は、誰にもあることであり、そんなとき、人はそれを意志の弱さと考えがちです。しかし、ウィリアム・ジェームズによれば、それは習慣ができていないだけであるということです。目標を掲げたら、すぐに勉強に集中して成績を上げていく人は、そのための習慣を身につけている人なのです。ですから、どんなにたいへんでも、まずは行動を起こし、学習するスタイルを習慣にすることが重要です。個人差は無論あるでしょうが、何事も3週間続けられれば苦にならなくなり、3ヶ月続けられればそうしないことが気持ち悪くなるのが脳科学によって明らかになっていきますし、そこには、身体や感情の動きに伴って分泌される脳内物質がかかわっていることもわかっています。のちに、行動が変われば習慣が変わり、習慣が変わればやがて人生そのものが大きく変わっていくと述べた、先のジェームズの有名な言葉は、名言として今も輝きを放っていることは君たちもよく知っているとろだと思えます。そうです、習慣を作るのは、兎にも角にも君たちの行動あるのみです。何よりも実際に行動してみることは大切です。長い間楽しみにしていたことを実際にやってみたところ、あまり面白いものではなかったとか、心配で嫌だなと思っていったこともやってみたら、思いのほか楽しくて充実できた、という経験は君たちにもあるでしょう。人は行動なくしては何も学べはしないのであり、人はこれを挑戦と呼ぶのです。挑戦してみなくては何事もわかりません。ですから、君たちには、ここ高女で思い切り挑戦する生徒でいてほしいと強く期待しますし、それこそが、「学びの道をば勇みこそ行け」という高女生の誓いなのです。高女には様々な学びがあり、尊敬すべき先輩がいて、信頼できる友人がいます。毎日が豊かなものになることは間違いないところです。しかし、君たちのここ高女での楽しみが、舞台上で自ら演じる表現者でなく、それを眺める観客のような楽しみであってはならないのです。これから、勉強、部活、そして様々な体験活動が君たちを待っています。時には、自分には無理ではないか、と感じるような壁が立ちほだかることがあるかもしれません。しかし、皆さん、どうか忘れないでいてください。そんなときこそ、皆さんが大きく変われる、そして成長できるチャンスなのです。君たちには、ともに学ぶ仲間がいます。そして君たちを見守り、指導にあたる、熱意あふれる先生方がいます。今日から「高女」というすばらしい舞台で、何事にも挑戦し、ほかの誰でもない自分自身を精一杯成長させてください。皆さん一人ひとりが高女の主人公であることを決して忘れてはいけません。君たちにとって、ここ高女での三年間が、挑戦と成長による奇跡の連続となることを願ってやみません。

結びになりますが、保護者の皆様、本校は、日々の学習指導や部活動等の指導は無論のこと、交通事故や災害から身を守る安全教育、新型感染症予防のための徹底した対策、そして、生徒たちが日々安心して学べるよういじめのない学校づくりに全校で取り組んでおりますが、これら安全・安心な学校づくりには、保護者の皆様のご協力が欠かせません。本校の教育方針を是非ご理解をいただき、今後ともご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

未来を担う人材の育成という崇高にして、高邁な使命を深く心に刻むとともに、新入生諸君の限りない可能性を祝し、式辞といたします。

令和四年四月八日

群馬県立高崎女子高等学校

校長

濱野雅樹